

# 厚真中学生三人が入賞

## 第19回全道中学生の税をテーマとしたポスターで

道が主催し行われた「全道中学生の税をテーマとしたポスター」で、厚真中学校（高橋啓夫校長）生徒三人が入賞、学校へ北海道知事賞（奨励賞）が贈られ、三月八日、同学校で伝達式が行われました。

全道一七八校、四、七六二点の応募作品の中から、小山内菜美さんが最も評価の高い五点に贈られる、北海道知事賞優秀賞に輝き、佐々木あすなさんが、北海道教育委員会教育長賞に入選、谷内真奈美さんへ北海道胆振支庁賞が贈られました。三人はいずれも三年生で、夏休みから取り組み二カ月間かけて仕上げた力作。「入賞には正直驚いた、卒業のいい思い出になった」と口をそろえて受賞の喜びを語っていました。また、高橋校長は「本校の美術教育の成果が形に現れたことと、本人たちの努力の結果ですね」と話していました。



右から高橋校長、小山内さん、佐々木さん、谷内さん。ポスターも同じ順

## 92チーム約800人の選手がスタードームなどで熱戦

3月12日、13日の両日、スタードームなどを会場に、第12回厚真CUP室内少年サッカー大会（主催／厚真カップ実行委員会）が、札幌、苫小牧、日高などから20少年団、92チーム、約800人の選手が集まり行われました。

学年別5部門に分かれて、熱戦が繰り広げられ、本町から参加した厚真FCキッカーズの、渡部直樹くん（6年）、小寺隆星くん（3年）、蛭子美緒さん（2年）に優秀選手賞が贈られました。



厚真チームの試合の様と選手宣誓をする渡部直樹くん



## 趣向をこらした作品や料理に 来場者の目がかぎ付け

J Aとまこまい広域女性部厚真支部（河村美枝子支部長）主催の、「第39回趣味と工夫展」が3月11日、総合福祉センターで行われました。例年、農家の主婦の皆さんによるこの催しに、今年は、卵の部、食品の部、更正の部、趣味の部の4部門に71種類100点以上の趣向をこらした作品や料理が展示されました。河村支部長は「短期間の間にたくさんの作品を作製・展示していただいた。支部数・会員数が減るなか、地区や一人ひとりの協力で意義深いものを感じる」と開会式で参加者に話していました。

厚真ライオンズクラブ（大岩滋雄会長）の認証30周年を記念し、3月5日に総合福祉センターで講演会が行われました。講師は、昨年アテネで行われたパラリンピックのアーチェリー競技に出場し、銀メダルを獲得した米澤昌子さんで、「スポーツと生きる力」をテーマに人と人とのつながりの大切さなどを話しました。また、パラリンピックの様子をスライドで上映し、来場者から大きな拍手が送られていました。

## パラリンピック出場の米沢さんが講演



学校給食センターでは、3月8日、厚真・厚南中学校3年生を対象に「バイキング給食」を行いました。

うな玉バツテラ、酢豚、プチオムライスなど二十二種類の料理がところ狭しと並べられ、生徒たちは、うれしそうに盛り付け、食べていました。

生徒は「高校に入ったら、厚真のおいしい給食が食べられなくなるのが残念だなあ」と最初に最後のバイキング給食を満喫していました。



## どれもあいしそう！二中学校三年生がバイキング給食

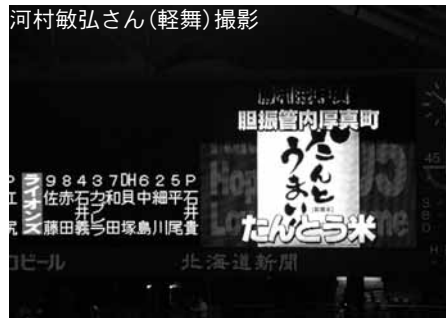
## 加勢敏和さん(美里)が道産業貢献賞を受賞



受賞祝賀会であいさつをする加勢さん

二月十日、札幌市で平成十六年度北海道産業貢献賞（農業関係功労者）表彰式が行われ、加勢敏和さん（美里）へ北海道知事から表彰状が贈られました。  
加勢さんは、昭和五十九年から農業共済組合理事、副組合長、組合長の要職を歴任し、農業共済事業の普及などに尽力されたことが高く評価されました。三月四日には、有志の方々が発起人となり、苫小牧市内のホテルで受賞祝賀会が行われ、加勢さんは、「今後も共済事業の充実と組合員の経営安定に力を注ぎたい」と話していました。

河村敏弘さん(軽舞)撮影



## たんとう米をプロ野球公式戦の勝利投手へ贈呈

厚真町認定農業者会議（石橋公昭会長・会員157人）が三月二十八日から三十日に、札幌ドームで行われたプロ野球公式戦、北海道日本ハムファイターズ対西武ライオンズの試合の勝利投手三人に「たんとう米」を贈りました。  
三十日の試合には、会員三十八人が札幌ドームへ訪れ、電光掲示板に『胆振管内厚真町たんとう米』の文字が大きく表示されると、会員の中から歓声が上がっていました。



## 「顔の見える関係づくりを」まちづくり講演会で

町などが主催し、三月二十二日、総合福祉センターで「あつままちづくり講演会」が開催され、約二百人の町民などが講演に耳を傾けました。  
講師に、コミュニティ・ビジネス総合研究所長の細内信孝さんを迎え「地域を元気にするコミュニティ・ビジネス」がテーマ。「顔の見える関係のコミュニティの中で、活力ある地域をつくっていくためには、ビジネスの視点を持つことが大切なこと」と細内さんは話していました。